



18

松風

以歌并詞為卷名

源氏廿歳ノ秋邊ヨリカケリ繪合ノ卷モ同年ノ春ノ一

哥十六首

奇身... 山里ニキニ似タル松風ノフク

二条院

西ノ聖 花散

むん^{たい}の院^{たい}はくわ^{たい}て^{たい}く^{たい}乾^{たい}ら^{たい}庭^{たい}里^{たい}也^{たい}歳^{たい}々^{たい}え^{たい}

う^{たい}は^{たい}る^{たい}う^{たい}一^{たい}は^{たい}り^{たい}一^{たい}は^{たい}り^{たい}此^{たい}基^{たい}わ^{たい}く^{たい}の^{たい}な^{たい}と^{たい}う^{たい}け^{たい}て^{たい}ま^{たい}

と^{たい}は^{たい}け^{たい}り^{たい}一^{たい}な^{たい}と^{たい}は^{たい}あ^{たい}づ^{たい}ま^{たい}の^{たい}ま^{たい}や^{たい}ち^{たい}一^{たい}と^{たい}う^{たい}を^{たい}は^{たい}ら^{たい}の^{たい}

春^{たい}ハ^{たい}あ^{たい}一^{たい}の^{たい}歸^{たい}方^{たい}も^{たい}お^{たい}介^{たい}一^{たい}を^{たい}き^{たい}て^{たい}た^{たい}わ^{たい}小^{たい}の^{たい}

ふ^{たい}は^{たい}な^{たい}と^{たい}ふ^{たい}は^{たい}く^{たい}は^{たい}く^{たい}ら^{たい}を^{たい}お^{たい}て^{たい}う^{たい}わ^{たい}め^{たい}て^{たい}も^{たい}老^{たい}と^{たい}

お^{たい}介^{たい}一^{たい}て^{たい}ゆ^{たい}く^{たい}は^{たい}急^{たい}う^{たい}け^{たい}て^{たい}ち^{たい}ま^{たい}わ^{たい}た^{たい}の^{たい}め^{たい}は^{たい}一^{たい}人^{たい}と^{たい}

は^{たい}と^{たい}ひ^{たい}と^{たい}あ^{たい}へ^{たい}ふ^{たい}さ^{たい}ま^{たい}り^{たい}あ^{たい}て^{たい}く^{たい}志^{たい}は^{たい}く^{たい}も^{たい}せ^{たい}は^{たい}

う^{たい}か^{たい}一^{たい}も^{たい}お^{たい}介^{たい}一^{たい}う^{たい}え^{たい}と^{たい}は^{たい}あ^{たい}わ^{たい}て^{たい}こ^{たい}ま^{たい}り^{たい}な^{たい}は^{たい}

志^{たい}ん^{たい}て^{たい}ん^{たい}ハ^{たい}あ^{たい}け^{たい}は^{たい}り^{たい}は^{たい}と^{たい}き^{たい}く^{たい}わ^{たい}る^{たい}は^{たい}は^{たい}す^{たい}え^{たい}

あ^{たい}ま^{たい}一^{たい}して^{たい}さ^{たい}あ^{たい}か^{たい}る^{たい}あ^{たい}は^{たい}は^{たい}は^{たい}ら^{たい}ひ^{たい}と^{たい}も^{たい}志^{たい}と^{たい}う^{たい}を^{たい}

あ^{たい}ま^{たい}一^{たい}わ^{たい}わ^{たい}一^{たい}中^{たい}は^{たい}あ^{たい}ま^{たい}さ^{たい}う^{たい}さ^{たい}い^{たい}と^{たい}え^{たい}ひ^{たい}は^{たい}は^{たい}ら^{たい}

寝殿 同海 本專 住所 七 八 末 具 仁 十三



融公山莊今ハ
拙巖寺ノ清涼寺ノ東ニアル阿弥陀堂也

なん思ふふさゆへ美此ハ何巻わらん修理わあは
—してこのおと人すもぬ〜ハはくろひあされ
なんやとふふあづらわはと〜うらうすお人も
りの—おりまゝあや—きをよりなわて付まぶ
こも下やふうはくろひて屋とと付るとは春のはも
内のおふ殿此はくろせおは堂らりくそり此わら
なんいといけさけが—うあわもて付ふゆのや—ま
はぶうたたて〜おぼくの人あむほくわつとが丸付
めあ〜けりあさほかいな〜バも連やた〜ひ付らん
なま〜うれも〜此殿のほ〜げお〜う〜けてと思ふ
る〜あわてな〜のぼ〜〜とひ〜く〜お〜ちの〜う〜せハ

故民太師君
前中書王次男伊行
一ノニヨソヘタリ
魚明親王ノ長男伊行中納言ノ二男伊行位四位上春宮太子太師云々
魚明ノ長男伊行ハサキハハコモト云テ魚明ノ魂永附テ奉ル云々

志てんまばいうきておぼく〜此〜う〜せと物せ〜と
いふかほ〜〜〜〜お〜よ〜ゆる〜秘と又〜わは〜え
竹人もあけま〜かこりあ〜な〜ひ〜せ年ば〜く
縁〜付はるありた〜さ〜う〜乃田を〜けな〜とい〜あ〜こ〜乃
い〜は〜ふ〜あ〜是〜侍〜〜は〜故民部大満の君小中た〜ま
りわて〜さ〜あ〜〜物な〜とをわて〜なんら〜う〜〜付〜くわ
侍おとあん〜と〜れ〜あ〜ら〜れ〜た〜く〜え〜ん〜の〜事〜と〜も〜と
あやう巻よ思てひ巻〜ら〜よ〜は〜な〜〜〜お〜く〜き〜あ〜介〜を
うふな〜い〜う〜ち〜あ〜め〜は〜〜〜〜あ〜ま〜い〜ん〜は〜〜〜お〜ま
田な〜と〜や〜う〜乃〜り〜い〜〜〜よ〜志〜あ〜ま〜〜た〜く〜年〜は〜此
やう〜思〜て〜物〜を〜よ〜ま〜ま〜〜ハ〜家〜小〜あ〜ん〜何〜連〜と〜す〜人〜

券ノ一ニシテ訓ス足説ノ一ノ文書トアリ

ちいぬ世をいたのきんぞくわふたよとせむらよのち
くしきくしきよはきてえさけまききよをいひ
はくさひらうおきのやともいとうはめいさきま
かわあやうとすせりーめーおまは人のくふく
思くごりやーもまた君のほたぬ思やうよはを
くれりほーはよもふふあなぬやうもなとおひ
路へうらーうとあれつるなりわななまの思ひ
まうゆくすおかりうーうぶさうよぬよかへわて
ふる^{受領}らうのちめはたらひーそまほーまあひ
よもきむくうくのち換あつたむるこもなまは物
うーおふやをりこまー入るをこがまーきぬと

り後りそ^{父大にんしつ}おむれほまうげとをほーあんことれ
いんーうまあん^{なう}せとほしてはるりぞてなわ
くわと人あまきくれーとうれこ入はきては
よう思ひいふちてくわと思ひ付るよ君のやうく
おとなひ妙ひ物ありかーちるべき入う入ておと
ううくらあきせひひまそーまほかろーきんは
らん^{ふく}はれ屋こりままなくめびまわいりな
まよは^ん神とたのえまいてさわこもううつ
あまありひのまえあうけ乃いかりあなまーと
うーと^おりまひとばとたのえはー入思よわ
うーと^おりまひとばとたのえはー入思よわ

あいなさき路

あいなさき路 尺の巻入りあはれよりあまのうむ

あいなさき路 尺の巻入りあはれよりあまのうむ

尺

あいなさき路 尺の巻入りあはれよりあまのうむ

字本 細流 舟
河内 権ウキ、植日
張富 漢氏ノ使トシテ權ニ乘
シテ天漢ノ源ヲ究ニシ孟津ニ至リテ舟ヲ三途ニテ停シテトラ思テスル
文選云ト下年トカリ三十歳ヲヘテ歸シト下年トハ三十歳ノ名也

あいなさき路 尺の巻入りあはれよりあまのうむ

あいなさき路 尺の巻入りあはれよりあまのうむ

あいなさき路 尺の巻入りあはれよりあまのうむ

あいなさき路 尺の巻入りあはれよりあまのうむ

あいなさき路 尺の巻入りあはれよりあまのうむ

あいなさき路 尺の巻入りあはれよりあまのうむ

あいなさき路 尺の巻入りあはれよりあまのうむ

あいなさき路 尺の巻入りあはれよりあまのうむ

あいなさき路 尺の巻入りあはれよりあまのうむ

あいなさき路 尺の巻入りあはれよりあまのうむ

あいなさき路 尺の巻入りあはれよりあまのうむ

あいなさき路 尺の巻入りあはれよりあまのうむ

六帖
人ヨリモ思ハレ
君ナシハムベ山ノ
ニクナリテリ

思ひむせひつふん此處もえ海くやうなわめは
しうあそわの志をえ海もいひあさくはわが
さまんせまてつてくる年月ふあさまし
くやしきもそむほむ大敵を乃志とつうを
なわと世人もてけふくは時によまは人のみな
あわきわくくういすくまたる人此山くちい
しうれとち志くふかかのたよ心なまらあ
りつさ自ひたるをいしうらうくおわが
め此とのくごりほとわおと落へたわあ
祿ひまうわて月お海の何物澄なまきとゆふと
あふさ海志ふやのあさりふすくはくむことと

おわりの海くくもいとあそまきてわらん
しともうしきをわりのかいあはとくふうはらひ
竹へとの竹へといせうぬくしきかといてと
あゆふもあとりわなわあ日とよよ海得り
うさちひ海く海く海く海く海く海く海く
あつた院りりわく海くしとわらまき
えさうの人あわ海まわたらあ海く海く
あわたわあ海とも此海くしうるな海く海く
海くしうるな海くしうるな海くしうるな
あさげあわて志海くはれしうわぬく海く

花
里邊三イカセヨトカ
カクミハミミミ子ハ
ネニカルラム

つ巻なまじりくすすまじり思と珠一也との路ぬふ
もふあよ思路へくわける年ばよりわめりまうく此
ほめせあー乃お月ほなるねむはんほくーり
など羨ありの君てまうー出てまらたまらんは我
まじひ妙くかつ井の路てあやーいれ思たえぬ
カ入りこまありけまじりーよそとあーやいつ
なごもあごもよいそくはわー兄路もぬうーいあう
人んちもまめおの妙くいづらわひて女君よめく
なんともまじり遊なごく物思みまてあーなまじは
とえよーまじりれすあまわよまめーとお介
くわんまじりまじりいれはまじりくまめじり

出てホーノーまじりめくれくうーいれめーり
あまめりてー何わく我を羨たるきりひんきたち
とつりん少もたらぬーいひひんをわていぬ
屋よりくいらひ路とてまじりわあへくわえ路へるに
さうまじりめつまみとくわ来ぬつんこまき
さうわのはあまなわつこううひ屋羨路くーか
まーかわあわどよあり路よくわはまじりなま
みくてこうりのくーりわけまじりぬまきの
まうまてなまめりーいあひひのあがまじり
何あぐらなまみななるまじりれとけさりー
くく人もまじりなわあわあけまじりのまじりまじり

フタニ初見三十三花鳥良書

誰ヲモ知人ニモ
タカシ

一みうあわえてぐり者小あゝあんちよをよて
ほくしとわふまわさく人のんてき帯中ノ人ヲ見付テけをえほきて
かす此物わはま一付く程オソレカニケレバこゝろをだえんう
備風むく付めりほふ乃程さあもむむ後み
あしふへきささぐふなきてとけ一きつじを
登へ内ヨリサ帯ノ返答ふやまいさうりアホシテれあも城とさわ
きふを松も昔の世たどればあふわす連ぬ人も物
一程きふ小たのりなま和んいふいふな一や我も
をよひふあめ一もあさうり一となとあさうり
おふゆまといぬカサテテとさうちカサテテけさやぎを業り
ぬ原とさうあ原さうあゆ丸原あ原さうり原

吾ハ
ヨカラ
折レハ
カツ
ナ

此先ヨラフ
ひては車五十四の志り小致中將兵儀傳らせ
程係い係と係あ係く係さ係あ係く係え係あ係く係は係されあ係く
さう程さうとさうイハシさうりイハシりイハシ程よイハシくイハシ月イハシ不
口おイハシうイハシ内イハシもイハシ小イハシをイハシくれイハシ付イハシよイハシくイハシ程イハシもイハシ思イハシ新イハシ人イハシらイハシれイハシ
うイハシなイハシげイハシさイハシ者イハシをイハシわイハシくイハシてイハシぬイハシりイハシ付イハシるイハシやイハシまイハシ乃イハシもイハシ一イハシきイハシくイハシ
まイハシさイハシうイハシ付イハシるイハシりイハシ程イハシ通イハシ乃イハシ色イハシさイハシうイハシさイハシうイハシわイハシりイハシ付イハシけイハシきイハシ
なイハシまイハシぎイハシ一イハシ此イハシ何イハシうイハシむイハシのイハシこイハシらイハシまイハシうイハシつイハシつイハシひイハシせイハシくイハシらイハシ
をイハシくれイハシ倚イハシめイハシいイハシまイハシなイハシらイハシぬイハシらんイハシなイハシをイハシさイハシうイハシふイハシいイハシ程イハシ
かイハシげイハシくイハシ殿イハシ小イハシとイハシさイハシうイハシなイハシくイハシまイハシまイハシよイハシおイハシりイハシ一イハシあイハシまイハシはイハシりイハシ
あるイハシはイハシあイハシはイハシ一イハシ志イハシなイハシまイハシさイハシうイハシひイハシとイハシもイハシあイハシ一イハシたイハシるイハシあイハシ
河イハシまイハシのイハシさイハシんイハシばイハシりイハシおイハシりイハシ一イハシおイハシくイハシ程イハシ小イハシとイハシまイハシりイハシあイハシまイハシまイハシまイハシ

小鳥 細萩十付ル 枝数九ヲ羽ノ下ヲ披山菅若ニ細キ
カラミテ三ツクハ 三ツクハ 三ツクハ
ニツクハ 三ツクハ 三ツクハ
結分ル 是ヲ山ツクハ 薄菊ノ枝ニモツクハ

えさなとほとてまきわお母んきあまうたひ
順流ノ水
お母んきあまのわらわやうをまよえひり
まきまそおりーまきーはなのくつ句あど
ほくらわーて月夜屋まようー出ふ程よおん
わさひーまわてまといぬめうーひさ物懸懸
お母んげりり笛も上ま此りきりーておわり
あひーるてうーみた所るかと河風もあり勢て
おもーあきま月まうくうーあわりよ流傳の
あまひめあ夜乃屋まくあ程よあま人りり
はまてまいあわうーまあひるあを流あまひ
程中ハ程アリシ

六日 物忌 何云
長神物忌ニ長神
方遠ハ五日六日
連續スル

あわくあつ舟で小くふハ六日此はあまあくあ
日よあなまあああああああああああああ
きーれまあまああああああああああああ
まきーあーてあまううーあるなわわあ使ハく
人のあなわわわ

河云 魚名死之月
中有河ノ水上有
桂樹高五百丈

冷ハ初衣
月のまあ川此まあなあああああああああ
あハのとけうらんあああああああああああ
まわあえうをあうんのあああああああああ
うーあすこさあああああああああああああ
まあああああああああああああああああ
けまああああああああああああああああ

正合
久カクノ中ニオロタ
目十一ハ光ノミ
タシムヘニ
阿
二十ニテアハハカニ
入三月ノ近キヨコ
所カラカモ所恒

ほろりーとわとわめんたる小志さうひてまゝせ
とらきぬひはやさうけめてお家を流はうひの井の
とくめんわまらまは女のふりうくりつ巻紙
久うこのひうわ小ちのお名乃こしてあさゆふ
まわもつまぬ山里りホ常まちやまし路のんんなる
ア申ホ小おひさうとう地正んー路ほいでり
りホわらち路をれほー出て路恒がと路うり
りホおかめさきせんまとなとの路ひ出たるすホ物表
お家志ひなきとも何はるー
めくわあてまふと路りうやふよやあをちれ
路のあをさうー月路中將

花鳥云
相登ノ右天弁ト
河海ニ有非ト

うお雲小志りーまうひー月路乃すえんは家
うホ此とけりるふきお大弁ーおわらあひて故
院の内時ゆもむほまーうほうまほわなまー
人なわ々わ

雲乃うんのまををさてー夜半の月いつまの
ためうけかろーせんホんホふホほまホあめまホうホ家
さくてなんホけホちホうホおホ志ホ路ホまホらホるホ路ホ物ホ流ホりホー
まちみま運ホてホ千年もえきうぬりホきホ路ホ何ホりホまホぬ
おホばホどのホのホくホえホもホくらホぬホへホびホまホどホくホふホうホへホハホとホて
うホうホさホうホつホわホ路ホ物ホもホ志ホあホくホにホうホ路ホあホてホあホ常ホの
たえまふたあまーとたるもお裁乃乾小えホまホりホひ

神ノ約ヲ式ニ草ヲカフ
草ノ下リカハ水トナリ
カハニ

たる色あひなどごとりめてこゝを流流りさ此名
た義と縁里ものくしーともなとさあつぬり
さうくくーく運だれ此あまなとえさ運河をびて
ぬ義うけ給さく秋のしーきを風乃吹たふかゆ
う遊乃くちわてしんらを給ひびきとわが舟よは
物うぬてくまててふらわさびーうなるめ給さう
うこをさよまてとわともは心入りうく運わ殿よ
おりてとげらう地やけと給やま里此御物後
あとやのし給いとも義いえーかどは義は運バいに
まーうこうのめすまののとも乃たつひきさいを
うこう志ぬともさー小ひりされてけさないとなや

まーくそお不殿ともまわ例此らとけ正とく抄くど
えちく無やう少てあびらひなるぬ程とおがく
ずさもわあきわさふめわらまはわも思ひか
給へとをーへ義いえ給くれあふ家かどぶう地へ
糸わ給小ひきうはさてひう義うき給いうーこへ
あめりうふめくぬ屋かふえのうらさうめきそほの
りとをさなちなとくみ義あを此夜ハまあふも
ちあふひ抄へけ運とけさわは家流掌ことわす
果少きぬ運とゆうて給ぬあわはふあへわもて
ぬいまわえ引くー給りくは流んまことにく
うはいさうーもえく縁あま運屋わうくー給へ

しほりーをうゝ物此らんもいほひほなまき
かどふならにわらうてほけううくふすわ井路え
ほ心のうちふじやまお悪ーいお介ー座うあまふ
火をうちながめえあとり物もれ路りまふひ日危
うわがううあれと女悪ん路もぬやうねるとせめて
えうくー路ほまーいさうもほうもーけまうて
うちを路へほほあい行ぬまきまをうがまぬー
さーもわ路てまきとハ路うふげある物城ーいば
賢あさくもみんぬをうわとて物めりさん程もん
うわおぬうほも思ひなんりうひぬもあーいふ
思ひぬくーしてほ心ふおひささめ妙へい

カソイロハイカニヨク
思ラニミトセニナリヌ
思メノスミナ

いへまきーめてんかうみ路てんやひふのこがよは
ひももなわふうほとつんなままなるも思ひひて
かたうあういはまあけなまきもつーこもぬまうい
うむなとおりの城めさまーとむがさびいひふゆひ
路へーとやま路思リひよろことわあー路ほん乃
うめてせめてえさうすうなくやはゆうてしう
いへけならんほえ路ゆはいとようかなひぬへく
なんいふうけくーまかとおとせほーうちあえ
路ぬらことまわなうらうまりのよー路ふほん
なまふええいさうーほりやわらむがほ
せうーむうんやせまーとあかーえふわらる路ふ

